

令和4年度 乙訓圏域新任職員連続講座アンケートまとめ

●第1回

日時 令和4年9月9日

場所 乙訓福祉施設事務組合 大会議室

内容 「親の思いを知る」

講師 あらぐさ会 安武 真理 氏

交流会 約20分

質疑応答

参加者 対面10名 ZOOM9名 計19名

参加事業所

・放課後等デイサービス grow ・乙訓ポニーの学校 ・ドリトル向日 ・ヴィキッズ  
・ぼっとまむ

・ピアハウス ・乙訓若竹苑 ・デイケアセンターカムカム ・らうれあ  
・障害福祉センターあらぐさ ・大山崎町社会福祉協議会 ・第2ひまわり園

・はあーと介護サービス ・居宅介護事業所フィール ・向日市障がい者支援課  
・京都済生会病院福祉相談室

(感想)

○利用者様家族の色々な話を聞いて良かったです。

○障害をお持ちの方の親御様が、当事者として、子の誕生からこれまでの子育てにおける苦労や喜びについて、リアルな話をして下さり、認識を改めたことも多く、新たに学ぶ機会を得て良かったです。当事者の横のつながりと、一丸となった働きかけにより、当事者のニーズが少しずつでも充足してきた経緯も知ることができ、諦めずに訴え続けることの意義も再認識できました。また、障がい者福祉において乙訓地域の果たしてきた重要な役割を知り、その成果を引き継いで行けるよう頑張ろうと思いました。福祉に携わるものに対するお母様の温かいお心遣いも大変嬉しく思います。

○子育ての中での困難さや悩まれた事をお聞きできたら、それが今後の支援を考える上でのヒントになるかと思いましたが、今回の講師の方はその様なお話には触れられませんでした。困難なさなかにおられた時ではなく、時間が経った今だから、気持ちに余裕もあってのお話だったのでと想像すると、支援を行う上で、いかに、その時出来ることを真摯にできるか、寄り添って歩けるかがその先のその家族の形に大きく影響するのではと思いました。どのように子育てをされてきたのか等、実際のお話を伺うことができ、勉強になりました。

○障がいのある子、健常の子、どちらの育児も大変さはあるという話や、支援者の方には長くいてもらいた  
いので、自分の人生も大切にしてほしいという話がとても印象に残りました。利用者の方や保護者の方  
に向き合う姿勢を考えさせられる機会になりました。

○普段ご家族の方からお話を聞く機会というのは中々ないので、とても貴重な経験になった。自分もご家族か  
らの要望を聞いて、支援に組み込めるように努めたい。

○障がいを持たれた子を育てられた親の生の声を聞いて勉強になりました。

○利用者さんを支える家族の話を知ることができ、大変勉強になりました。複雑な思いを持たれながら支え  
ておられることはほんやり知ってはいるものの、改めて安武さんがこれまで支えてこられた経緯を聞い  
て、考えさせられるものがありました。みなさん、それぞれに不安など感じられていることを忘れずに、  
少しでもご本人やご家族の負担が少なくなるような支援がしていけたらと思いました。

○普段聞くことができない利用者さんの生い立ちから様々な親の思いまで幅広く聞かせていただけとても貴  
重な時間でした。

自分の人生を大切にしたいうえで誰かの支えになることが大切だという部分が印象に残りました。

## ●第2回

日時 令和4年9月16日

場所 乙訓福祉施設事務組合 大会議室

内容 「学校の特別支援教育を知る（特別支援学級・通級指導教室）」

講師 乙訓教育局学校教育担当 中村 祐真 指導主事

長岡京市教育委員会学校教育課 尾瀬 さち子 指導主事

参加者 対面13名 ZOOM21名 計34名

参加事業所

- ・放課後等デイサービス grow ・乙訓ポニーの学校 ・ドリトル向日 ・ヴィキッズ
- ・ぼっとまむ ・コベルプラスこころ京都むこうまち教室
- ・わいわいプラス乙訓教室

- ・ピアハウス ・乙訓若竹苑 ・らうれあ ・障害福祉センターあらぐさ
- ・第2ひまわり園 ・グループホームかんな

- ・はあーと介護サービス ・居宅介護事業所フィール ・向日市障がい者支援課
- ・京都済生会病院福祉相談室

(感想)

○教育側の視点からのお話だったので、新たな視点をもつことができました。

- 資料がない中でお聞きするのはとても疲れましたが、参考資料を教えて頂いたのは良かったです。乙訓地域での支援学級の増加や、対象児の増加など、具体的数字を知り、現場が大変なのではと想像できました。できたら現状について、支援の限界であったり、現場の実際の困り感であったりについて、もっと具体的なお話が聞いてみたいと思いました。
- 教育局の中村様の講義は特別支援教育に関する制度の発展過程や、法律の説明だったが、内容の性質上少し分かりにくかった。長岡京市学校教育課の尾瀬様の講義は、教師として長年勤めた学校での実体験や統計も示しながら、具体的に特別支援教育の現状を、平易な言葉でわかりやすく説明されて、すんなり今まで知らなかったことが理解できた。今回の講義で、長年障がい児者の支援に関わってきたが、支援学校や支援学級の仕組みやカリキュラムについては学ぶ機会がなかったので、今回の学びは大変有意義であり、利用者をより良く理解して支援するための一助になった。ありがとうございました。
- 特別支援学級や通級指導教室の違いや詳しい内容が分かりやすかったです。長岡京市の学校の細かな数字も初めて知り勉強になりました。
- オンラインで受けましたが、少し音声聞き取りにくかったです。通級の話など、普段なかなか聞くことができない内容であったため少し残念でした。
- 支援学級や通級指導教室の基本的なことについて、よく分かる研修でした。実際の現場でどのような取り組みが行われているか、保護者との連携はどうしているかも知れるとよかったです。
- 最初の制度の話はすぐに理解が追いつかず難しかったです。制度を元に教育支援がなされていることが分かりました。乙訓圏の特別支援教育については、どのような教育内容がなされているかなど、事例を元に説明して下さり、具体的に知ることが出来分かりやすかったです。
- 特別支援学級についての知識がなかったため基本を学べて良かったです。地域の学校の現状を知れたため特別支援学級への理解が深まりました。特別支援学校の仲間が知れたことで、抽象的なイメージが具体化されたので凄く分かりやすくて気づきが多かったです。
- 学校における特別支援教育が、目指すところが分かる研修でした。地域校の中では、コーディネーターの先生や通級の先生が、かなり専門的な役割を担っていることが分かりました。先生方個々の理解や意識、学び続ける意欲などが必要になってくると思うので、負担も大きいのではないかと思います。また、先生たちの中でも理解に差があると思いますが、特別な支援ばかりを考えるのではなく、どんな子どもにも分かるような授業の工夫をお願いしたいなと思います。先生が子どものことだけに、意識を向けられるように、人員の確保など、教育場面の柔軟な対応が必要だろうと感じました。
- 乙訓の障害児の取り組み、支援学校のプログラムやカリキュラムでは普通学級とは違い、ひとりひとりにあったものを採用しているとともに児童が社会や地域で生活していくために必要な力を身につける支援プログラムが計画されていることが分かった。

○特別支援教育がどういうものか知れて、支援のイメージがひろがりました。

○実際に教育課にいらっしゃる先生に学校での特別支援教育についてのお話を聞いて為になりました。障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で学ぶことを目指すべきであり、それぞれの子供が理解し、充実した時間を過ごしつつ生きる力を身につけていくという、本質的な視点に立つ事が重要であると感じました。

○支援学級について、法律や現状を知る機会になり良かったです。できれば、学習障害を合併している方もいると思いますので、学習指導やアプリの活用などのことも聞きたかったです。

○支援学級、通級指導のことをいろいろ知ることができてよかったです。この10年で倍増しているということも、やっぱりそうかとうなずいてしまいました。どんどん増えていく中で、教職員の数が足りなかったり、仕事も増えていっている現状があり、ニーズに応えたいのに応えられないというもどかしさも感じました。まだまだ知らないことが、多いので、これからも学んでいければと思います。ありがとうございました。

○小学校の中での支援を数字として知ることができました。またこのような機会が持てるのであれば、小学校で取り組んでおられる内容を具体的に教えていただけると、より支援級や通級指導教室について知ることができると思います。

○教育支援において「学習活動に参加している実感、達成感をもち、充実した時間をすごせているか」ということが大切にされるべきという内容が印象に残った。保護者の思いを聞きながらも「子供にとっては何が大事か」を考えつつ、相談に応じていきたい。

○特別支援学級の授業には、自立活動、各教科等を合わせた指導、があり、1コマ45分を短い時間で数日かけて行う、といった対応が可能になることを知った。支援学級で行われる、本人に合わせた学習指導、について部分的だが具体的に知ることができたことが良かった。同時に、自分をもっと学校のことを知った上で、先生方と話をする必要があるかもしれないと感じた。学校の授業の仕組みやどのような制度に基づいて先生方が動かれているのか、分かりやすく教えてもらえる機会があると良いと思った。

○わかりやすい内容だったと思いますが、実際の運用について、また福祉との連携についてもう少し詳しく知りたかったです。

○障害のある子の状態のみに着目するのではなく、一人一人の教育的ニーズに着目することが大切だとあり、大人にも共通することだと感じました。

切れ目ない支援のためには情報の引き継ぎが大切だと感じました。

●第3回

日時 令和4年9月30日

場所 乙訓福祉施設事務組合 大会議室

内容 「乙訓の障害福祉の歴史を知る」

講師 向陵会 乙訓ひまわり園 地域連携室室長 井上 大 氏

乙訓福祉施設事務組合 乙訓若竹苑主任 小柳 裕一 氏

交流会 約20分

質疑応答

参加者 対面7名 ZOOM13名 計20名

参加事業所

- ・乙訓ポニーの学校 ・ドリトル向日 ・ヴィキッズ ・ぼっとまむ
- ・わいわいプラス乙訓教室 ・放課後等デイサービス五つの輪物女集教室
- ・コベルプラスここいろ京都むこうまち教室
  
- ・ピアハウス ・乙訓若竹苑 ・デイケアセンターカムカム ・らうれあ
- ・障害福祉センターあらぐさ ・大山崎町社会福祉協議会 ・第2ひまわり園
- ・グループホームかんな
  
- ・居宅介護事業所フィール
- ・京都済生会病院福祉相談室

(感想)

○乙訓圏域の福祉施設の基盤となった若竹苑さんと乙訓ひまわり園の歴史や地域交流のためのイベントについて知り、改めて地域の人々の理解や支援が必要だと感じた

○これまでの歴史は、こうした機会がないと知れないので勉強になりました。

○普段の研修では、学ぶことが出来ない乙訓圏域の歴史、若竹苑さん、ひまわり園さんの障害福祉の歴史を学ぶ事ができとてもいい勉強になりました。長い間乙訓で福祉に関わり、親なき後の子供の自立を支援し、365日、24時間をイメージして療育に励んでいきたいとおもいます。

○乙訓の障害福祉の歴史を知る機会はほとんどなかったので大変勉強になりました。乙訓福祉施設事務組合さんやひまわり園さんが取り組んでこられたこと、今取り組んでおられることを知ることができました。新しい事業所はこのような経緯をしらないことも多いかと思うので新任だけに関わらず、他の事業所の取り組みなどを知れる機会があれば、乙訓の福祉がらよりいっそう、発展するかと感じました。

○乙訓の障がい福祉の歴史を知ることで第1回の親の思いと重なる部分が多くあると感じました。家族のニーズに応じていくことや、卒業後の進路で選択できるところに限りがあることが課題であることなど改めてつながりを感じました。

● 今後、取り上げてほしいテーマなど

○家族支援

○（障がいのあるお子さんの）子育ての中での困難さや悩まれたこと。

○学校など、教育現場に携わっている方のお話が聞ける機会がまたあると嬉しいです。

現状について、支援の限界や、現場の実際の困り感についてなど、もっと具体的な話が聞きたい。

現場の取組と保護者との連携について聞きたい。

小学校で取り組んでいる内容を具体的に知りたい。

学習障害を合併している方の、学習指導やアプリの活用など。

○引きこもり、不登校について

通級指導教室についても知りたい。

○不登校支援や、子どもの居場所づくりについてなど

○今回のお話のようなことがしっかり行われている現場ばかりではない印象なので、今後は実際の現場の声が聞けるといいなと思いました。

○地域の取り組み

他の事業所の取組などを知る機会がほしい。

○新任向けだけでなく、中堅向けの研修も有ればいいかと思えます。

○事例検討や各施設での取り組みの交流など

●次年度に向けて

○ハイブリッド開催をする場合は、慣れていないと準備に時間がかかるので、当日の準備時間を長めにとる。また、会場設営などの準備も必要なので、人手があると助かる。

○オンライン参加者が聞こえにくい場面があったので必ず事前練習は必要。

○参加者の交流について、対面での交流とアウトブレイクルームでの交流に差を感じた。

交流はできるなら対面がよい。

○長岡京市に適応指導教室の説明を求めるなら教育支援センターに依頼する。教育委員会では十分に説明ができないとのことだった。